

18 建築学専攻 学習課程

本専攻では、学部において修得、修練した建築学全般についての知識、技術を基盤とし、下記に大別される分野の内、各自が希望する分野を組み合わせ、より高度の学問技術を修得、修練する。

本専攻では、下記の各分野の講義、演習、実験を準備しており、建築学コース、建築デザインコースそれぞれに応じて選択することになる。

建築史	建築意匠	建築計画	都市計画
建築構造	建築環境工学	建築材料	建築施工

【修士課程】

人材養成の目的

本課程では、高度な専門知識に基づき、最先端の建築・都市空間を創造する人材、そして、次世代の建築学や建築界を先導し、建築文化の形成に貢献する人材の養成を目指している。技術とデザインの調和と融合を図るために、2つのコースを用意しており、主に、建築学コースは創生的な技術を追求する研究者や技術者、建築デザインコースでは創造的なデザインを追究する建築家や研究者の養成を目的としている。

学習目標

本課程では、上記の目的のために、次のような能力を修得することを目指す。

- ・専門分野の研究、創作、技術開発において事物の本質を理解し、論理的に思考、創造、表現する学力。
- ・多面的な広い視野にもとづく知識を修得して、専門知識との関連を理解する能力。
- ・専門分野の研究、創作、技術開発において専門知識を活用して実践に導く能力。
- ・国際的視野にもとづく研究、創作、技術活動における潮流を理解し体系化する能力。
- ・日本語および英語による論理的な説明、論述、議論ができる能力。

学習内容

本課程では、上記の能力を身に付けるために、次のような内容に沿って学習する。

A)専攻専門科目

建築学の専門科目において、講義、討論、発表、演習などを通して、建築学全般における基礎的学力を再確認しながら、実践に向けた高度な知識を履修する。

B)周辺領域専門科目

他分野から専門知識を見直すとともに、他分野への適応能力を修得するため、広い多面的な観点や知識を履修する。

C)修士論文研究

専門分野において創造性を育成する科目として、課題を設定し、研究、創作、技術開発を行い、成果を論文にまとめる。その過程において少人数による議論や討論を行い、発想、思考、創造、表現を実践し、修得する。

D)実践研究スキル

専門分野に関する研究、創作、技術開発のために、演習、実験、実習などを通して、少人数による議論や討論を行い、発想、思考、創造、表現の向上を図る。

E)論理的対話スキル

修士論文研究において、専門知識に基づき論理的な説明や議論ができる能力などを修得する。

修了要件

本課程を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。

1. 34 単位以上を大学院授業科目から取得していること
2. 本専攻で指定された授業科目において、つぎの条件を満たすこと
 - ・講究科目を 8 単位取得していること
 - ・専攻専門科目を 12 単位以上、他専門科目を 2 単位以上取得していること
 - ・大学院教養・共通科目群の授業科目より 2 単位取得していること
3. 修士論文審査および最終試験に合格すること。

授業科目

表1に本専攻における授業科目分類と修了に必要な単位数を示す。必要単位数は科目分類ごと、また科目群ごとに指定され、また対応科目欄には科目選択にあたっての注記がある。右端の欄には科目と関連する学習内容を示す。学習申告にあたっては、科目と学習内容の関係を十分理解し、意識すること。

表2は建築学専攻の修士課程における研究科目群の授業科目を示す。表3は、建築学専攻が指定する専攻科目群を示し、「専攻専門科目」と「他専門科目」を示している。表4は、本専攻が指定する大学院教養・共通科目群を示す。

表1 建築学専攻授業科目分類および修了に必要な単位数

授業科目	単位数	対応科目	学習内容との関連
研究科目群	8 単位		
講究科目	・8 単位	表2の講究科目	A)、C)、E)
研究関連科目			
専門科目群	14 単位以上		
専攻専門科目	・12 単位以上	表3の専攻専門科目より選択	A)、D)
他専門科目	・2 単位以上	表3の他専門科目より選択	B)
大学院教養・共通科目群	2 単位		
大学院国際コミュニケーション科目 大学院総合科目 大学院広域科目 大学院文明科目 大学院キャリア科目 大学院留学生科目	・2 単位	・左記分類科目のいずれかから選択(表4を参照) ・※印を付された専攻専門科目の授業科目の単位を大学院教養・共通科目群の授業科目として振替できる。(注1) ・大学院留学生科目は、外国人留学生のみ履修可	B)
総単位数	34 単位以上	上記科目群及びその他の大学院授業科目から履修	

(注1) ※印を付された専攻専門科目の授業科目の単位を振替えた場合、専攻専門科目の単位は認められないので留意すること。

表2 建築学専攻 研究科目群

分類	申告番号	区分	授 業 科 目	単位数	学期	学習内容	備 考
講 究 科 目	62705	◎	建築学講究第一	0-2-0	前	A)、C)、E)	修士課程(1)
	62706	◎	建築学講究第二	0-2-0	後	A)、C)、E)	修士課程(1)

	62707	◎	建築学講究第三	0-2-0	前	A)、C)、E)	修士課程(2)
	62708	◎	建築学講究第四	0-2-0	後	A)、C)、E)	修士課程(2)

表3 建築学専攻 専門科目群

分類	申告 番号	区 分	授 業 科 目	単位数	学期	学習 内容	備 考
講 究 科 目	62004	★	建築史特論 第一 History of Architecture I	2-0-0	前	A)	A, D 平成25年度休講
	62005	★	建築史特論 第二 History of Architecture II	2-0-0	後	A)	A, D 平成25年度休講
	62003	★	建築保存設計特論 Architectural Preservation and Renovation	2-0-0	前	A)	A, D, [歴史的建造物の保存活用]
	62006	★	建築ディテール特論 Architectural Detail	2-0-0	前	A)	D, [ディテールの構成にもとづく建築論] H25年度休講
	62007	★	都市環境設計特論 Architectural Theory for Urban Space	2-0-0	後	A)	D, [建築デザインの見方, 考え方]
	62053	★	建築プログラム特論 Architectural Programming	2-0-0	前	A)	D, [建築デザインを成立させる社会的環境]
	62033	★	建築意匠特論 Theory of Architectural Design	2-0-0	後	A)	D, [建築デザインの構想とその表現] H25年度休講
	62054	★	建築意匠設計 第一 Architectural Design Studio I	0-0-2	前	A)	D, [建築設計製図のアドビシスト・コース]
	62055	★	建築意匠設計 第二 Architectural Design Studio II	0-0-2	後	A)	D, [建築設計製図のアドビシスト・コース]
	62041	★	建築空間設計特別演習 Theory of Architectural Space and Planning	0-2-0	後	A)	D
	62011	□	建築環境論	1-0-0	後	A)	A, D, E
	62056		建築構造デザイン特論	1-0-0	前	A)	A, D, O
	62064		構造デザイン実践論	2-0-0	前	A)	A, B, D
	62001		建築計画学特論 第一	2-0-0	後	A)	A, E
	62002		建築計画学特論 第二	2-0-0	前	A)	A, O
	62017		建築計画学演習	1-1-0	前	A)	A
	62049		地域施設計画特論	2-0-0	前	A)	A
	62065		都市・農村まちづくり計画特論	2-0-0	前	A)	A
	62042		地域施設計画演習	1-1-0	後	A)	A
	62035		構造設計特論	1-0-0	前	A)	B、O
	62025		鉄骨構造特論	2-0-0	後	A)	B
	62043		複合構造特論	2-0-0	後	A)	B
	62036		シェル構造特論	2-0-0	前	A)	B
	62038		地盤地震工学特論	2-0-0	前	A)	B

62051		応用構造設計特論	2-0-0	後	A)	B
62046	□	建築設備・環境特論	2-0-0	後	A)	A, B
62045	□	適応生理学	2-0-0	前	A)	B, O
62028	□	環境保全工学 第一	1-0-0	前	A)	A, B, E
62029	□	同 第二	1-0-0	前	A)	A, B, O
62022	□	建築材料・構法特論	2-0-0	前	A)	B
92029		建築構想設計特論	2-0-0	後	A)	他) 人間環境システム
92003		視環境設計 第1	2-0-0	前	A)	他) 人間環境システム, O
92004		視環境設計 第2	2-0-0	前	A)	他) 人間環境システム, E
77020		知的社会基盤特論	2-0-0	前	A)	他) 情報環境学
77016		広領域知識ベース特論	2-0-0	後	A)	他) 情報環境学
77026		空気清浄特論	2-0-0	前	A)	他) 情報環境学
77045		環境数値シミュレーション I	2-0-0	前	A)	他) 情報環境学
98069		Urban Environmental Engineering 都市環境工学	1-0-0	後	A)	他) 環境理工学創造
68003		都市空間利用計画特論	2-0-0	後	A)	他) 社会工学
62066	#	建築学異分野特定課題研究スキル A				(他専攻所属学生のみ受講可) 他) 環エネ院
62067	#	建築学異分野特定課題研究スキル B				他) 環エネ院
62111		建築意匠特別演習 第一	0-0-2	前	A)、 D)	D, 設計・調査研究, 修士課程(1)
62112		建築意匠特別演習 第二	0-0-2	後	A)、 D)	D, 設計・調査研究, 修士課程(1)
62113		建築意匠特別演習 第三	0-0-2	前	A)、 D)	D, 設計・調査研究, 修士課程(2)
62114		建築意匠特別演習 第四	0-0-2	後	A)、 D)	D, 設計・調査研究, 修士課程(2)
62101		建築計画特別演習 第一	0-2-0	前	A)、 D)	A, 修士課程(デザインコースを除く)(1)
62102		建築計画特別演習 第二	0-2-0	後	A)、 D)	A, 修士課程(デザインコースを除く)(1)
62103		建築計画特別演習 第三	0-2-0	前	A)、 D)	A, 修士課程(デザインコースを除く)(2)
62104		建築計画特別演習 第四	0-2-0	後	A)、 D)	A, 修士課程(デザインコースを除く)

						〈〉(2)
62543		建築工学鋼構造特別実験 第一	0-0-1	前	A)、 D)	B
62544		建築工学鋼構造特別実験 第二	0-0-1	後	A)、 D)	B
62545		建築工学鋼構造特別実験 第三	0-0-1	前	A)、 D)	B
62546		建築工学鋼構造特別実験 第四	0-0-1	後	A)、 D)	B
62547		建築工学コンクリート構造特別実験 第一	0-0-1	前	A)、 D)	B
62548		建築工学コンクリート構造特別実験 第二	0-0-1	後	A)、 D)	B
62549		建築工学コンクリート構造特別実験 第三	0-0-1	前	A)、 D)	B
62550		建築工学コンクリート構造特別実験 第四	0-0-1	後	A)、 D)	B
62551		建築工学地盤地震工学特別実験 第 一	0-0-1	前	A)、 D)	B
62552		建築工学地盤地震工学特別実験 第 二	0-0-1	後	A)、 D)	B
62553		建築工学地盤地震工学特別実験 第 三	0-0-1	前	A)、 D)	B
62554		建築工学地盤地震工学特別実験 第 四	0-0-1	後	A)、 D)	B
62559		建築工学環境特別実験 第一	0-0-1	前	A)、 D)	B
62560		建築工学環境特別実験 第二	0-0-1	後	A)、 D)	B
62561		建築工学環境特別実験 第三	0-0-1	前	A)、 D)	B
62562		建築工学環境特別実験 第四	0-0-1	後	A)、 D)	B
62563		建築工学設備特別実験 第一	0-0-1	前	A)、 D)	B
62564		建築工学設備特別実験 第二	0-0-1	後	A)、 D)	B
62565		建築工学設備特別実験 第三	0-0-1	前	A)、 D)	B
62566		建築工学設備特別実験 第四	0-0-1	後	A)、 D)	B
62555		建築工学材料施工特別実験 第一	0-0-1	前	A)、 D)	B
62556		建築工学材料施工特別実験 第二	0-0-1	後	A)、 D)	B
62557		建築工学材料施工特別実験 第三	0-0-1	前	A)、	B

						D)	
	62558		建築工学材料施工特別実験 第四	0-0-1	後	A)、 D)	B
	62535		建築設計プラクティス 第一A	0-0-2	前	A)	A, B, D
	62536		建築設計プラクティス 第一B	0-0-4	前	A)	A, B, D
	62537		建築設計プラクティス 第二A	0-0-2	後	A)	A, B, D
	62538		建築設計プラクティス 第二B	0-0-4	後	A)	A, B, D
	62539		建築設計プラクティス 第三A	0-0-2	前	A)	A, B, D
	62540		建築設計プラクティス 第三B	0-0-4	前	A)	A, B, D
	62541		建築設計プラクティス 第四A	0-0-2	後	A)	A, B, D
	62542		建築設計プラクティス 第四B	0-0-4	後	A)	A, B, D
	62501		建築学特別講義 第一	1~2	前・ 後	A)	A, B, D
	62502		建築学特別講義 第二	1~2	前・ 後	A)	A, B, D
	62503		建築学特別講義 第三	1~2	前・ 後	A)	A, B, D
	62504		建築学特別講義 第四	1~2	前・ 後	A)	A, B, D
	62505		建築学特別講義 第五	1~2	前・ 後	A)	A, B, D
	62506		建築学特別講義 第六	1~2	前・ 後	A)	A, B, D
	62531		建築学特別ワークショップ 第一	0-0-1	前	A)	A, B, D
	62532		建築学特別ワークショップ 第二	0-0-1	後	A)	A, B, D
	62533		建築学特別ワークショップ 第三	0-0-1	前	A)	A, B, D
	62534		建築学特別ワークショップ 第四	0-0-1	後	A)	A, B, D
他専門科目	28013	☐	Scientific Writing	1-1-0	前		他)環エネ院(個別指定対応) *環エネ院所属学生は申請により専攻科目とすることができる。
	28002	☐	都市環境学	2-0-0	後		他)環エネ院(個別指定対応) *環エネ院所属学生は申請により専攻科目とすることができる。
	28003	☐	環境負荷低減技術論	2-0-0	後		他)環エネ院(個別指定対応) *環エネ院所属学生は申請により専攻科目とすることができる。

	28012	□	環境配慮型キャンパス・デザイン論	2-0-0	前		他)環エネ院(個別指定対応) *環エネ院所属学生は申請により自専攻科目とすることができる。
			上記の他専門科目に加えて、他専攻及び各教育院の専門科目群の授業科目(自専攻の専攻専門科目を除く)			B)	

(注) 1)◎印を付された授業科目は、必ず履修しておかなければならない授業科目で、備考欄の(1)、(2)などは履修年次を示す。

2) Aは計画系、Bは工学系、Dは建築デザインコースを主な対象とした授業科目である。

3) 一部の授業科目は隔年講義となっており、備考欄中の E は西暦年の偶数年度に、同じく O は奇数年度に開講するもので、何も書いていないものは毎年開講の授業科目である。

4) ★印を付された授業科目は、国際大学院プログラムに対応する科目である。

5) □印を付された授業科目は、リーディング大学院「環境エネルギー協創教育院」プログラムに対応する科目を表す。

6) #印を付された授業科目は、リーディング大学院「環境エネルギー協創教育院」プログラムに所属する他専攻学生のみ、環境エネルギー協創教育院の他専門科目として履修することができる。

7) 備考欄中の(他)は、専攻で指定した他専攻の開設科目である。

8) 備考欄中の環エネ院(個別指定対応)の授業科目は、リーディング大学院「環境エネルギー協創教育院」に所属する学生から専攻専門科目とみなすよう申請し、受理された場合には専攻専門科目として扱う科目である。

表4 建築学専攻 大学院教養・共通科目群

分類・授業科目	学習内容	備考
大学院国際コミュニケーション科目	B)	・左記各研究科共通科目より選択 ・大学院留学生科目は、外国人留学生に限り履修可能とする。
大学院総合科目	B)	
大学院広域科目	B)	
大学院文明科目	B)	
大学院キャリア科目	B)	
大学院留学生科目	B)	

修士論文研究

修士論文研究では、課題の設定から、方法の検討、課題の解決に至る各段階の能力、及び研究を展開する能力の修得を目指し、成果を論文にまとめる。この過程において、学期毎に学修目標の設定と成果を評価しながら進め、最終試験の評価を受ける。

【博士後期課程】

人材養成の目的

建築学専攻では、専門分野における知識を極め、研究、創作、技術開発において優れた学業業績を上げ、将来、次世代の建築学や建築界を支え、国際的な活動が期待できる研究者、建築家、技術者の養成を目的としている。

学習目標

本課程では、上記の目的のために、次のような能力を修得することを目指す。

- ・専門分野の研究、創作、技術開発を実践するための高度な専門知識と学力。
- ・専門分野の研究、創作、技術開発において、国際的な潮流の中で先進的な活動ができる能力。
- ・国際的な活動におけるリーダーとして、論理的な説明、論述、議論ができる能力。

学習内容

本課程では、上記の能力を身に付けるために、次のような内容に沿って学習する。

A) 専攻専門科目

研究分野における世界水準の高度な専門性に加え、幅広い専門知識とともに、境界領域でも実践的に活動できる能力の修得。

B) 博士論文研究

研究分野において世界的水準の研究を自ら構築し、実践する能力を修得するとともに、博士論文を執筆する。

C) 論理的対話スキル

国際的活動の中で将来、リーダーとして高度な専門知識にもとづき論理的な説明、論述、議論ができる能力を修得する。

修了要件

本専攻の博士後期課程を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。

1. 博士後期課程に所属した期間に対応する表5に示す講究科目を取得していること。
2. 博士論文審査および最終試験に合格すること。

表5 建築学専攻 博士後期課程研究科目群

分類	申告 番号	区分	授 業 科 目	単位数	学期	学習内容	備 考
講 究 科 目	62801	◎	建築学講究第五	0-2-0	前	A)、B)、 C)	博士後期課程(1)
	62802	◎	建築学講究第六	0-2-0	後	A)、B)、 C)	博士後期課程(1)
	62803	◎	建築学講究第七	0-2-0	前	A)、B)、 C)	博士後期課程(2)
	62804	◎	建築学講究第八	0-2-0	後	A)、B)、 c)	博士後期課程(2)
	62805	◎	建築学講究第九	0-2-0	前	A)、B)、 C)	博士後期課程(3)
	62806	◎	建築学講究第十	0-2-0	後	A)、B)、 C)	博士後期課程(3)

(注) 1) ◎印を付された授業科目は、必ず履修しておかなければならない 授業科目で、備考欄の(1)、(2)などは履修年次を示す。

博士論文研究

博士論文研究では、課題の設定から、方法の検討、課題の解決に至る各段階の能力、及び研究を展開する能力の向上を目指し、成果を論文にまとめる。この過程において、学修目標の設定と成果の評価を経て、最終試験の評価を受ける。

※ 博士一貫教育プログラムにおいては別途要項を参照のこと

〔教 授 要 目〕

62004

建築史特論第一 (History of Architecture I)

前学期 2-0-0 ○David Butler Stewart 特任教授

藤岡 洋保 教授

※今年度休講

現代欧米建築及び都市計画の諸様相 (Instruction in English.)

History of Architecture I (建築史特論第一)

First Semester (April) (2-0-0)

Prof. David B. STEWART, Prof. Hiroyasu FUJIOKA

This seminar deals with historical aspects of modern architecture and urban planning in Europe and/or the United States. Individual architects, or design topics are explored in depth using English-language materials. Attendance is required each week and several projects in building/planning research and analysis (including graphic materials) will be assigned in the course of the semester.

62005

建築史特論第二 (History of Architecture II)

後学期 2-0-0 ○David Butler Stewart 特任教授

藤岡 洋保 教授

※今年度休講

建築史特論第一のテーマを引き続いてとり上げてゆく。(Instruction in English.)

History of Architecture II (建築史特論第二)

Second Semester (October) (2-0-0)

Prof. David B. STEWART, Prof. Hiroyasu Fujioka

This seminar is a continuation of History of Architecture II (History of Architecture II must be taken first, except for International Students who matriculate in autumn.).

62003

建築保存設計特論 (Architectural Preservation and Renovation)

前学期 2-0-0 藤岡 洋保 教授、山崎 鯛介 准教授

歴史的建造物の保存活用の歴史, その理論や実例の検討, 問題点や可能性について論じる。

Architectural Preservation and Renovation

First Semester (April) (2-0-0)

Prof. Hiroyasu FUJIOKA

The theory and practice of architectural preservation and renovation in modern Japan will be discussed with a view of their history

62006

建築ディテール特論 (Architectural Detail)

前学期 2-0-0 未 定

※今年度休講

建築のディテール設計について, 歴史的および現代の作品を通じて論じる。

Architectural Detail

First Semester (April) (2-0-0)

(未 定)

Analysis of architectural detail through historical and contemporary experience.

62007

都市環境設計特論 (Architectural Theory for Urban Space)

後学期 2-0-0 塚本 由晴 准教授

おもに現代社会や都市空間という文脈において建築のデザインを検討することを通して, 建築の批評言語の構築と実践を行う。

Architectural Theory for Urban Space (都市環境設計特論)

Second Semester (October) (2-0-0)

Assoc. Prof. Yoshiharu TSUKAMOTO

Analysis of architectural design in the context of contemporary society and urban space. It aims to build and practice the critical language in architectural design.

62053

建築プログラム特論 (Architectural Programming)

前学期 2-0-0 安田 幸一 教授

建築が成立するときのさまざまなマネージメント及び設計手法を解説する。

Architectural Programming (建築プログラム特論)

First Semester (April) (2-0-0)

Prof. Koichi YASUDA

Analysis of design and methods management to achieve high-quality architecture

62033

建築意匠特論 (Theory of Architectural Design)

後学期 2-0-0

※今年度休講

建築空間のデザインについて考察し、その論理、方法について検討する。

Theory of Architectural Design (建築意匠特論)

Second Semester (October) (2-0-0)

(未 定)

Analysis of design for architectural space and its theory

62054, 62055

建築意匠設計 第一 前学期 0-0-2 安田幸一 教授ほか

建築意匠設計 第二 後学期 0-0-2 安田 幸一 教授ほか

(Architectural Design Studio I / II)

建築設計製図のアドバンスト・コース

Architectural Design Studio I / II

First Semester (April) / Second Semester (October) (0-0-2)

Professors of Architectural Design Course

Advanced Design Projects both in Architectural and Urban Context

62041

建築空間設計特別演習 (Theory of Architectural Space and Planning)

後学期 2-0-0 未 定

建築空間の特質とデザインの方法について論ずる。

※英語開講

Theory of Architectural Space and Planning (建築空間設計特別演習)

2nd Semester (June) (2-0-0)

Design Theory and Case Studies

62011

建築環境論 (Theory of Architecture and Built Environment)

※西暦偶数年度開講

後学期 1-0-0 小玉 祐一郎 (非常勤講師)

建築空間環境の設計手法について論ずる。

62056

建築構造デザイン特論 (Structural Planning in Architecture)

※西暦奇数年度開講

前学期 1-0-0 竹内 徹 教授

建築意匠・計画を専攻する建築デザインコース及び建築学コース履修者を対象に、建築デザインに利用可能な最新の構造技術および材料・接合部の基本知識と設計における応用の方法、構造設計者とのコラボレーションの方法について概説する。

62064

構造デザイン実践論 (Structural Design Practice)

前学期 2-0-0 金箱 温春 特任教授

構造デザインは、普遍的な構造技術を前提とするとともにそれぞれの建築の個性にも対応し、要求される諸条件に対してバランスを考えることが必要である。講義では豊富な事例をもとに、構造デザインの基本的な考え方、架構の形態と力学の関係、構造材料の特性と設計上の留意点、地盤と上部構造の関係、法規定との関係などについて実践的な構造デザインの手法を紹介する。また、受講者が構造デザインの分析、立案の演習を行うことで実践的な習得を図る。

62001

建築計画学特論第一(Architectural Planning I)

※西暦偶数年度開講

後学期 2-0-0 藤井 晴行 准教授

建築・都市計画についての議論を通じてデザイン科学の基礎的問題について講述する。

62002

建築計画学特論第二(Architectural Planning II)

※西暦奇数年度開講

前学期 2-0-0 未定

建築・都市計画における数理的技法について講述する。

62017

建築計画学演習(Exercise in Architectural Planning)

前学期 1-1-0 大佛 俊泰 教授、藤井 晴行 准教授

建築計画・都市計画に関する分析方法について演習するとともに、建築設計・都市設計の進め方について学習する。

62049

地域施設計画特論(Planning of Regional facilities)

前学期 2-0-0 宮本 文人 教授

学校施設や教育関連施設等を中心とする地域施設について地域計画及び建築計画の観点から講述する。

62065

都市・農村まちづくり計画特論(Urban and Rural Planning)

前学期 2-0-0 斎尾 直子 准教授

建築計画及び都市・農村計画の基礎知識を前提とし、様々な特性の地域でおこなわれるまちづくりについて、計画プロセス、市民参加、及び、計画手法とデザイン、地域運営等について国内外の事例を用いて講述する。さらに、まちづくり提案型の課題を通じて、計画の評価力、実践力を習得させる。

62042

地域施設計画演習(Exercise in Planning of Regional Facilities)

後学期 1-1-0 宮本 文人 教授、斎尾 直子 准教授

建築計画に関する調査、建築設計・都市設計の過程に関する方法を修得させしむ。

※英語開講

Exercise in Planning of Regional Facilities(地域施設計画演習)

2nd Semester(October) (1-1-0)

Prof. Fumito MIYAMOTO、Assoc. Prof. Naoko SAIO

Exercise in Survey Methods and Architectural and Urban Design Process.

62035

構造設計特論(Structural Design)

※西暦奇数年度開講

前学期 1-0-0 寺本 英治(非常勤講師)・常木 康弘(非常勤講師)

構造の立場から、建築設計の理念とその具現について、実施例を示しながら講述する。

62025

鉄骨構造特論(Steel Structures)

後学期 2-0-0 五十嵐 規矩夫 准教授

建築鉄骨構造について部材及び骨組の安定問題を中心として講述する。

62043

複合構造特論(Composite Structures)

後学期 2-0-0 堀田 久人 准教授

鋼, コンクリートの降伏条件, 破壊条件, コンクリート系複合構造部材および架構の終局強度について講述する。

62036

シェル構造特論 (Shell Structures)

前学期 2-0-0 小河 利行 教授

シェル・空間構造の力学特性および曲面の幾何について講述する。

62038

地盤地震工学特論 (Geotechnical Earthquake Engineering)

前学期 2-0-0 時松 孝次 教授

動的荷重による地盤と地盤・構造物系の変形・破壊及びその解析法について講述する。

62051

応用構造設計特論 (Applied Structural Design)

後学期 2-0-0 竹内 徹 教授

工学系の建築学コース履修者を対象に, 空間構造, 免震・制振構造等の多様な構造デザインの設計実務を行う上で必要となる基礎知識・理論を講述し, 具体的な事例演習を通じて構造計画・設計を学ぶ。

62046

建築設備・環境特論 (Building Services & Environment)

後学期 2-0-0 湯浅 和博 准教授

建築および都市に設けられる各種の環境形成・維持設備, 利便設備, 安全設備, エネルギー供給設備等の個々の技術と, その環境に対する影響や役割について講述するとともに, 関連課題の発表と討論を行う。

62045

適応生理学 (Physiology of Human Adaptation)

前学期 2-0-0 中村 正道 准教授

ヒトの構造と機能を理解し, 生体がその感覚器官により環境を認識し, 感覚情報を処理し, 適応していく仕組みについて, 健康問題や環境問題などを含みながら講述する。

62028

環境保全工学第一 (Environmental Pollution Control Engineering I)

※西暦偶数年度開講

前学期 1-0-0 未 定

1. 緑化技術

外部環境・アトリウム植栽計画, 緑化効果の評価

2. 排水の環境影響

排水の水質とそれが水系に与える影響のメカニズムとその評価

3. 地球環境

大気エアロゾルの機能と地球環境, レーザー大気計測

62029

環境保全工学第二 (Environmental Pollution Control Engineering II)

※西暦奇数年度開講

前学期 1-0-0 未 定

1. 廃棄物処理

清掃事業の現状, 廃棄物の再生・資源化およびその環境への影響評価

2. 水環境

水道および給排水衛生設備に関わる水質基準と予防保全

3. 住環境, エネルギー

住宅のエネルギー消費, 住まい方と省エネルギー技術

62022

建築材料・構法特論 (Building Materials & Construction)

前学期 2-0-0 ○三上 貴正 准教授, 横山 裕 准教授

建築材料・構法の性能およびその評価方法について講述する。

62111, 62112, 62113, 62114

建築意匠特別演習 第一	前学期	0-0-2	} 建築デザインコース各教員
建築意匠特別演習 第二	後学期	0-0-2	
建築意匠特別演習 第三	前学期	0-0-2	
建築意匠特別演習 第四	後学期	0-0-2	

(Exercise in Architectural Design I～IV)

設計および調査研究

Exercise in Architectural Design I～IV

First Semester (April) / Second Semester (October) (0-0-2)

Professors of Architectural Design Course

Design Projects or Research Works

62101, 62102, 62103, 62104

建築計画特別演習 第一	前学期	0-2-0	} 宮本 文人 教授 大佛 俊泰 教授 藤井 晴行 准教授
建築計画特別演習 第二	後 "	0-2-0	
建築計画特別演習 第三	前 "	0-2-0	
建築計画特別演習 第四	後 "	0-2-0	

(Exercise in planning I～IV)

建築と都市の計画に関して、その方法を習練させる。

62543～62546

建築工学鋼構造特別実験 第一～ 第四 (Experiment on Steel Structures 1～4)

前学期 0-0-1 小河 利行 教授、竹内 徹 教授、五十嵐 規矩夫 准教授

鋼構造建築物の構造設計業務を行う上で、座屈現象や溶接部の破壊現象など、鋼構造特有の特性を実際に経験することは極めて重要である。本実験演習では、鋼構造の架構・部材または接合部を各自設計し、これに基づき製作した試験体を実際に載荷・振動・破壊させその特性を測定することで、設計した構造性能が実際に確保されているかどうかを自ら確認する。

62547～62550

建築工学コンクリート構造特別実験 第一～ 第四 (Experiment on Concrete Structures 1～4)

前学期 0-0-1 堀田 久人 准教授

コンクリートは実際の振る舞いが机上の明解な仮定や理論に則らないことが多く、実験に基づいて様々な工学的判断のための素養を身につけることが極めて重要である。本実験演習は、コンクリート系複合構造の架構・部材を模した模型試験体を各自設計・製作し、破壊実験等により構造物の破壊現象を実体験すること、あるいは設計した構造性能が実際に確保されているかどうかを自ら確認することを通じて、工学的な判断基準を養うことを目的とする。

62551～62554

建築工学地盤地震工学特別実験 第一～ 第四 (Experiment on Earthquake Engineering 1～4)

前学期 0-0-1 時松 孝次 教授

地震入力を策定し、建物およびその基礎の構造設計業務を行う上で、地盤と基礎の地震時挙動と破壊現象、ならびにその調査法を実際に経験することは極めて重要である。現実の地盤挙動の測定・実験を体験しないままにマニュアルのみで地震荷重を設定し構造設計を行うことは、失敗に繋がる可能性が高い。本実験演習では、地盤基礎構造物系の振動実験またはフィールド調査に関する企画、設計、実験、解析を通じて、地盤と基礎の地震時挙動と破壊現象ならびにその調査法を実際に自ら経験確認する。これらの作業は現実の構造設計実務における設計荷重の設定そのものであり、現実の敷地条件に対応した判断を行ううえで必要となる能力となる。

62559～62562

建築工学環境特別実験 第一～ 第四 (Experiment on Building Environment 1～4)

前学期 0-0-1 藤井 修二 教授、湯浅 和博 准教授

本実験では、環境特性が異なると考えられる複数の建築空間を履修者が設計し、まず、理論と設計データに基づいた環境特性の推定から、空間の違いによる環境特性を考察する。次に、計測器を用いて実空間

の環境特性を実測し、設計された環境特性を検証する。履修者自身が設計した建築空間の環境特性を、実測を通じて経験することで環境設計に必要な知識を修得させる。

62563～62566

建築工学設備特別実験 第一～ 第四 (Experiment on Building Facilities 1～4)

前学期 0-0-1 湯浅 和博 准教授

本実験では、まず、履修者が対象とする建築空間を設定し、空気調和・換気設備、給排水・衛生設備、電気設備などの設備設計を行い、理論と設計データに基づく設備機器の性能について考察する。次に、計測器を用いて実際に稼動中の設備機器の性能を実測し、設計された設備機器性能が実際に確保されているかどうかを検証する。設計した設備機器の性能を、実測を通じて経験することで実務設計に必須となる知識を修得させる。

62555～62558

建築工学材料施工特別実験 第一～ 第四 (Experiment on Material and Construction 1～4)

前学期 0-0-1 横山 裕 准教授

様々な建築材料、構法の有する性能を測定、評価したり、それらを用いて所期の性能を有する建築物を造り込んでゆくプロセスを実際に経験することは、性能に基づく合理的な設計および施工監理手法を理解、修得するうえで極めて重要である。

本実験では、性能評価の際の要点の1つとして、建築物に作用する様々な力学的、物理学的、化学的、生物学的外力を標準化するとともに、それに対する建築各部位の応答を把握する過程を体得する。

62535, 62537, 62539, 62541

建築設計プラクティス 第一A～ 第四A (Architectural Design Practice 1A～4A)

前学期 0-0-2 各 教 員

建築設計業務を行う一級建築士事務所での実務研修(インターンシップ)に一定期間従事することで、実施の建築プロジェクトに関する建築設計および工事監理に関する実務を経験し、それを通して一級建築士となるべき実務的技能、倫理意識、および専門知識を養うことを目的とする。

62536, 62538, 62540, 62542

建築設計プラクティス 第一B～ 第四B (Architectural Design Practice 1B～ 4B)

前学期 0-0-4 各 教 員

建築設計業務を行う一級建築士事務所での実務研修(インターンシップ)に一定期間従事することで、実施の建築プロジェクトに関する建築設計および工事監理に関する実務を経験し、それを通して一級建築士となるべき実務的技能、倫理意識、および専門知識を養うことを目的とする。

62501, 62502, 62503, 62504, 62505, 62506

建築学特別講義第一～第六 (Special Lecture in Architecture and Building Engineering I - VI)

前・後学期 各1～2単位 各 教 員

各教員がそれぞれの専攻する分野において特殊の題目を選択して随時開講するものである。

建築学特別ワークショップ 第一	前学期	0-0-1	各 教 員	62531
建築学特別ワークショップ 第二	後学期	0-0-1	各 教 員	62532
建築学特別ワークショップ 第三	前学期	0-0-1	各 教 員	62533
建築学特別ワークショップ 第四	後学期	0-0-1	各 教 員	62534

(Workshop in Architecture and Building Engineering I - IV)

建築学の分野および建築デザインの分野において海外や国内の大学、企業、研究などと共同して、参加型の企画・計画・設計、創作、実験、測定、調査、討論などを行う。

建築学講究 第一	前学期	2単位	} 指導教員	62705
建築学講究 第二	後 "	2 "		62706
建築学講究 第三	前 "	2 "		62707
建築学講究 第四	後 "	2 "		62708

(Seminar in Architecture and Building Engineering I - IV)

指導教員を中心として専攻に関連する諸問題につき、講究報告せしめる。

Independent Study Under Student's Own Professor

建築学講究 第五	前学期	2単位	}	指導教員	62801
建築学講究 第六	後 "	2 "			62802
建築学講究 第七	前 "	2 "			62803
建築学講究 第八	後 "	2 "			62804
建築学講究 第九	前 "	2 "			62805
建築学講究 第十	後 "	2 "			62806

(Seminar in Architecture and Building Engineering V－X)

いずれも博士後期課程における学科目であり、それぞれ示した期間に履修するものとする。この内容は博士後期課程相当の高い程度の輪講、演習、実験、製図等より成るものである。

62066、62067

建築学異分野特定課題研究スキル A、B

(Specific Interdisciplinary Subject in Architecture and Building Engineering A、B)

前学期、後学期 2－0－0 安田幸一、湯浅和博

建築学専攻以外の学生に対し、建築学分野の技術者として求められる専門的知識の初歩とスキルを体験し、自専攻での環境・エネルギー問題に応用できる能力を養います。具体的な研究テーマについては、教員と協議し決定するものとします。